



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん



障害者の ゆたかな未来をめざして



「あっぱれ辰年」 つゆはし作業所 共同制作：ほかほか班
※紹介が9ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 リハビリテーション委員会の活動…………… P2～3
- ▶ 年頭挨拶…………… P4
- ▶ リサイクルみなみ作業所 40周年記念レセプション開催…………… P6～7

2024年1月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践

リハビリテーション委員会の活動 ⑥

健康寿命を延ばす食べて元気にフレイル予防 ③

栄養マネジメント

はじめに

今回は食べて元気にフレイル予防第3段として、食事の考え方について報告します。

「バランスよく食べよう」と言われますが、皆さんバランスよく摂れていますか？食べられる量はその日の気分や、体調によって変わると思います。

今回テーマにしているフレイルは、体調不良や加齢などの影響によって食が細くなった↓身体機能・活動量が低下↓食事量低下と負のスパイラルに陥る可能性のある方々も対象になってきます。そういった方は食のバランスより、まず「食べたい気持ち」が大切になってきます。

食事支援は、その人の健康状態によって優先順位が変わります。「その時の優先順位が何なのか」、今回はコロナ禍での実践を踏まえ、報告していきます。

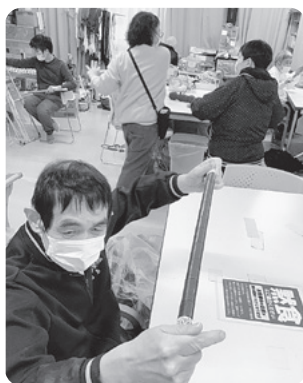
実践①

空腹は一番の調味料
運動してお腹を空かせよう

コロナウイルス感染症対応では、行動制限や密の回避など活動量を抑えるようなガイドラインが多く、ゆたか希望の家でも外出規制、活動制限をしていました。当然、運動量はそれ以前に比べて減り、それにより空腹感を感じにくくなりました。

Aさんは、コロナ罹患後に食事を吐くようになりました。当時はコロナの後遺症が原因で吐き戻しをしていると考えていたため、吐き戻しをしている時間帯、食材、食事量だけに注目していました。吐き戻しのないご飯を増量し、高カロリーゼリーなどの栄養補助食品や経腸栄養剤工ンシユアで栄養補給を行っている状態でした。

吐き戻す行為はその後も続き、次第に体重も減少し、栄養不足による皮膚トラブルなども出てきました。罹患から約2年以上が経った頃、多職種会議で議論がありま



今日はみんなで「ぼうたいそう」

した。「生活棟内をたくさん歩いたが、最近は座っている時間が長い」「40分ほど散歩をしていたが、今では10分歩くかどうか」「集団で行う体操などへの参加は本人の気分次第」。吐き戻しにばかり注意していた中で、ようやく「活動量の低下」が注目されました。

この議論を経て、食事のみに注目するのではなく、多職種連携で多角的な支援に取り組みました。理学療法士が身体評価、運動量の設定、作業療法士と言語聴覚士が食事姿勢や環境評価を行いました。また生活支援員は散歩やレクリエーションなどの活動量を上げる

取り組み、生活棟内の歩行を増やす支援の見直しなどを行いました。すると立っている時間は元に戻り始め、減少傾向だった体重も維持するようになってきました。筋肉が低下すると、栄養素の蓄積自体も減少すると言われていました。そのため活動量をあげる事で筋肉量を戻した結果が、体重維持に繋がったと思われれます。

BMも一時は「やせ」判定になるほどでしたが、現在は標準を維持できるようになりました。エンシユアや高カロリーゼリーの使用も半量ほどに減らす事が出来ています。吐き戻しはまだ時折見られています。当時よりは情報も集約されています。

「野菜など繊維が多い物」「副菜をご飯に乗せて、一緒にかき込んで食べる時」「周りの人がいなくなり焦るようにかき込み始める時」など、吐き戻しをされる様子も共有されています。かき込み始めようとしたら「残してもいいんだよ」という声掛け一つで「残す」という選択肢が持てるようになりました。「ゆっくり食べて大丈夫だよ」と伝えるだけで、咀嚼の回数が増え落ち着くなどの様子も見られています。

実践② 嗜好品も大切な栄養ケア

Bさんはコロナ罹患後、身体機能が一気に低下しました。白内障を発症し、さらに筋力低下の影響で転倒することが増え、車椅子での生活となりました。身体機能・活動量が低下↓食事量低下と負のスパイラルに陥り、体重も毎月1kgずつ減少していききました。

そこで手探り状態だった支援を一旦集約し、多職種連携で見直しを行うことになりました。サービスマン管理責任者のアセスメント↓多職種で健康状態の把握↓リハビリ職の評価↓サビ管主催の会議で支援方針の決定・発信へと繋がっていききました。

Bさんの個別支援計画は「ご本人の嗜好や意欲を大切にし、楽しく食事が摂れる環境を作ります。医療・リハ・栄養職と連携し、体力維持と安全面に配慮した支援を行います」となっています。

傾眠傾向が強くなる中で、覚醒が食事のタイミングと合わないことも多くなりました。そのため、「誤嚥や窒息のリスクを低減し、無理をしない効率的な栄養補給を考え

ていく必要がある」と経腸栄養剤イノラスが1袋処方されました。

生活支援員からは「カロリー制限がないのであれば、もっと取り組みや嗜好品（好きな物）を提供したい」という声がありました。本人のペースで、起きている時に手軽に栄養摂取ができるように、プチケーキなどの嗜好品の取り入れを始めました。

嗜好品は明らかに食事よりも反応が良く、意欲的に食べる様子が見られました。Bさんが自発的に食べるというのは、とても画期的な姿でした。



誕生日ケーキは自分で食べました

嗜好品やイノラスの取り入れを行っていく中で、体重が毎月1kgずつ増加していくようになりました。食事量も食べる量が増え、イノラスの使用量は半量に減らす事が出来ました。起きている時間

も増え、好きな紙ちぎりや日中活動への参加、外出や外食の取り組みを楽しんでいます。

■食の大切さを再確認して

ゆたか希望の家ではこの3年間、様々な方の看取りを経験しました。

9月に看取ったお二人のうちの一人は、コロナから誤嚥性肺炎を発症し、その後胃瘻を造設した経口移行に言語聴覚士を中心に取り組みました。しかし、てんかん発作で再度誤嚥性肺炎を発症し、退院後は経口摂取不可となりました。

胃瘻だけでは必要カロリー量が摂取できずに痩せていく姿、コーヒーや水に手を伸ばし、靴や砂を口に持つていく姿を見て、命と健康、そして人間としての尊厳について考えさせられることが多くありました。

もうお一人は、医師から「経口摂取不可」と診断される中で、誤嚥性肺炎のリスクと経口摂取を続けるかどうかについて、ご家族や医師、職員で何度も話し合いを重ねました。ご本人や家族は、最後までゆたか希望の家で過ごすことを希望され、リスク覚悟で口から

食べる食事を継続することになりました。

健康面だけでなく、精神的な充実を重視して、昼は通いなれたなみ作業所に通所、ゆたか希望の家では本人のペースで過ごすことを大事にしました。次第に食事が食べられなくなる中で、ご家族の持ってきたパンやお茶には手を伸ばして口にする事が多く見られました。

看取りの実践を踏まえた今だからこそ、食の大切さを再確認しました。栄養補給を考えた「食べられる」食事ではなく、意欲をもち「食べたい」と思える食事づくりに取り組んでいきたいと思えます。

管理栄養士 富永安理沙



2024年 年頭挨拶

理事長 鈴木清覺



ゆたか福祉会広報誌読者のみなさん、新年おめでとうございます。

昨年世界に目を移すと、戦争・紛争が絶えない状況が続き、多くの尊い命が奪われました。我が国では政治と金を巡る汚職報道があり、異常な軍備増強の動きとあわせ、あまり喜ばしくない状況で新年を迎えています。

昨年は、設楽福祉村の施設統合により第2ゆたか希望の家とグループハウスながら一緒になり「キラリンとーぷ」として新たに出生をしました。また、ゆたか福祉会として初めての事業である「地域生活支援拠点事業所」も本格的に稼働し、緊急短期入所やグループホームの体験利用など、地域の要望にも応える取り組みを拡大してきました。

ゆたか福祉会にとって55年目になる今年を

展望すると、事業運営においては人材の確保の課題や物価高騰の影響など、財政面での厳しさが予測されます。利用者をはじめとした親・家族の差し迫る高齢化問題への対応は大きなテーマでもあります。また、2020年度からスタートした第6期総合計画の最終年度でもあり、残された計画の推進と合わせて、次の第7期総合計画の検討と討議の年となります。仲間や家族、職員・関係者の皆さんの参加を得て、願いが結集できる計画をつくっていききたいと思います。

更に、この計画づくりを通してゆたか福祉会が創設時から取り組んできた、地域や関係団体との協力・連携、協同を一層、確かなものとして発展させていきたいと願っています。

最後になりますが、広報誌上でも時々の動

きを紹介しています仲間たちの「工賃」をめぐる消費税更正請求訴訟も、12月に第6回口頭弁論まで進んでいます。今年は一定区切りとなる判断が出されるのではないかと予想をしています。

この訴訟を私達は仲間たちの「労働権」を問う重要な裁判だと位置づけています。昨年末からは裁判所に向けて「公正な裁判」を求める「要請ハガキ」の運動を取り組んでいます。皆様にとってよりよき年となるとともに、前述の「要請ハガキ」の取り組みをはじめとして、当法人へのご支援、ご協力を引き続き賜りますようお願いし、年頭の挨拶と致します。

暮らしの中に彩りを



11/18

第10回ゆたか作業所 ふれあいまつり盛大に復活開催！

◆ゆたか作業所◆

「北風が強く気温も上がらず、冷え込む1日になるでしょう」そんな当日の天気予報が心配される中、11月18日土曜日に6年ぶりとなる「第10回ゆたか作業所ふれあいまつり」を開催しました。

2017年の開催を最後に、2020年からのコロナ感染拡大でイベントどころではなくなり、休止状態が続いていました。今年5月、コロナの第5類への引き下げ以降、一定感染状況も収束し落ち着いてきたことを受けて、復活開催を決定しました。しかし、空白の6年間の壁は高く、とにかく今年は「まつりをどんな形であれ復活させる！」決意で、準備を進めました。

当日は心配された風も弱く、薄日も差す天候でした。絶好のイベント日和ではなかったものの、10時の開会とともに地域の皆さんが多数、駆けつけていただきました。日用品バザーに産直野菜コーナー、子どもコーナー、キッチンカーを交えた人気の模擬店にも人だかりができ、皆さんのおまつりへの期待の高さを実感しました。

今回は「星に語りて」の映画上映も行い、安心して暮らせる地域づくりの発信も行うことができました。また前日までの心配をよそに、ゆたか作業所の仲間たちを含め大変盛り上がり、楽しめる1日となりました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

ゆたか作業所 吉田 博



11/10
11/17

まーぶる・エール 合同日帰り旅行

◆まーぶる・エール◆



11月10日、17日の2日間に分かれて、まーぶる・エールの車椅子の仲間達の合同日帰り旅行に出かけて来ました。10日は「イオン常滑店」にて各々買い物を楽しみ、17日は「セントレア」に出かけ、フライトオブドリームスにて大きな飛行機を間近で観る事が出来ました。

昼食は両日とも「まるは食堂りんくう常滑店」でランチを堪能。大きなエビフライのご馳走を前に、仲間達のたくさんの笑顔が溢れました。両日とも天候には恵まれずバスの乗降等、車椅子の利用者さんにとっては、とても大変な取り組みとなりました。また初めての大型バスでの旅行で、戸惑う事もたくさんありましたが、職員で力を合わせ、無事ホームに帰ってこることが出来てよかったです。

両日を通して、ホームでは見る事の出来ない仲間達の姿を見ることもでき、新たな発見のある素敵な機会であったように思います。

今回、旅行の実行委員として下見から食事の注文、しおり作りにも関わりました。自分自身も「初めてのホーム旅行」という事もあり、反省点も多くありましたが、次回の旅行に活かして繋げていきたいと思えます。

まーぶる 上村 彩水



リサイクルみなみ作業所

40周年記念レセプション 開催



理事長のあいさつ

リサイクルみなみ作業所では40周年を迎え、これまでの歴史を学び、実践を振り返り、次代へ繋げていこうと、職員学習会の開催や記念誌と文集の作成を行いました。そして11月18日、日本ガイシフォーラム第1・第2研修室を会場に、記念レセプションを開催しました。来賓、利用者、ご家族、関係者と職員で、総勢86名の参加となりました。

◆歴史を学び、 励ましをいただいて

2023年1月に、初代主任の伊藤浩さんを講師にお招きし、学習会を行いました。名古屋市職員労働組合の清掃支部の皆さんが「ゴミを資源化しよう」と奮闘された取り組みや、つゆはし作業所の前身である熱田作業所のカレンダー販売や物資販売の活動が、ゴ

ミ減量化の活動と結びついた事。そして障害のある当事者の皆さんが、働く場を創る運動に積極的に参加してきた事。ゴミ減量化に向けた市民運動の広がりなどを学ぶことができました。

また事業を創って来られた方々からは、『生き生きミニティー広場』でのエピソードや、「失敗は許されない事業」として緊張感をもって取り組んできた様子と、励まし

の言葉等をお寄せいただきました。卒業された利用者の皆さんへは連絡や訪問を行い、現役で働く仲間たちに向けた、メッセージをいただきました。その中に「この作業所が50年、100年残るために、公共性の高い仕事を担い、憲法前文が唱えているように、平和と障害者の人権が守られる社会が続くことが必要である」とありました。誰もが大切にされる社会に向けて、これからも励んでいきたいと思えます。

名古屋健康福祉局、名古屋市環境局、名古屋市職員労働組合環境局支部、南区保健福祉センターの方々からも心強い祝辞をいただきました。ご協力いただきました皆さま方、誠にありがとうございました。

所長 大野歌織



40周年記念Tシャツを着た運営委員さん

◆記念誌となかま文集の発行
節目を迎えたことを記念して、『50年につなぐ』をテーマに記念誌を発行しました。開所当時の主任さんより当時の様子をうかがい、働く場ができた仲間たちの喜びや、作業所を盛り上げる職員の熱意にふれることができました。「多くの方に支えられ、今日のリサイクルみなみ作業所があるのだ」と、敬意とともに「緊張感をもってこの事業を発展させていこう」と思いを新たにしました。

将来に思いを馳せ「夢」を語り合った30周年から繋がれたバトンをうけ、なかま文集では『つばさⅡ』を製作しました。仲間たちは「今、がんばっていること」や10歳をとった自分を想像して、思い思いに手紙を書きました。

親御さんやホーム職員、ヘルパーさんにも10年後の仲間たちへメッセージをいただきました。ある親御さんからは「10年後のことを考えると泣けてきちゃう」といった声もありました。

生まれてきてから今までのことを振り返り、普段言えない「ありがとう」の気持ちや応援メッセージなど、「元気に働き続けてほしい願いが込められた、愛情あふれる心あたたまる文集ができました。」

“SDGsの仕事の担っている誇りを胸に、未来へはばたこう!”

松田留美

◆記念レセプションの開催

まず開催に向けた準備として、30周年記念時の資料を確認しました。多数の来賓の方においでいただき、終日で開催しており、「この行事は1施設だけのものではなく、リサイクル事業に関わる人たちが皆さんのお祝いである」と理解しました。

大半の職員がリサイクルみなみ作業所での経験が浅く、また、新型コロナウイルス感染症対策の動向が定まらない中での準備スタートとなりました。日々の慌ただしい業務の中で、また残業をしながらの準備。疲れもみえた職員ですが、それぞれが責任を持ち業務を進め、当日を迎える事ができました。

I部では来賓の方から事業の大切さや、温かなエールを沢山いただきました。私たちの仕事は私たちがだけの物ではなく、「名古屋市民のための仕事であること」を再認識することができました。

II部の仲間のステージは、練習ではうまくいかない事も多かったのですが、本番は元気がいっぱいに歌や踊りを披露し、会場を大いに盛り上げました。

またこの日のために、リサイクルみなみ作業所のOB職員や、関係者の方々が数多く集まりました。思い出話に花を咲かせたり、一緒に舞台を盛り上げたり、会場の準備

や片付け、利用者の支援もしていただきました。皆で作りに上げた楽しくて、思い出に残るレセプションとなりました。
今回のテーマである「歴史を学び未来へ繋ぎ、人や資源を大切にする働き方を目指して」これからがんばっていきましょう。

稲垣 伸治



キャップ取り競争

皆さんからの感想

～自治会会長 近藤 敏さん～

40周年に、たくさんのお祝いの言葉をいただいて嬉しかったです。リサイクルを卒業した先輩方のメッセージが式典で紹介されて印象に残りました。II部は「仲間のステージ」で、「ダンシングヒーロー」や「ひげダンス」をしました。「ペットボトルのキャップ取り競争」は、リサイクルの仲間の代表と、つゆはし作業所の丸山所長や、リサイクル港の萩原所長、フレンズ星崎の山崎所長、野村元副所長が参加して、萩原所長が優勝しました。白熱して楽しかったです。それから「おくりもの」をみんなまで歌いました。
50周年までの10年間は「リサイクルの仕事がかっこいい！」と思ってもらえるように生き生きと頑張っていきたいです。

～ご家族から～

●先日は40周年記念レセプションに参加させていただきありがとうございました。私はこういった催しに参加させていたただくのは初めてでしたが、とても楽しませていただきました。リサイクルの歴史をあら

ためて見せていただき、皆さんのリサイクルへの愛情を感じました。今回母は参加できませんでしたが、いただいた記念誌を熱心に見ていました。保護者の皆様、いつもの活動をはじめ、準備ありがとうございました。(姉)

●レセプションに参加して設立の経緯を知り、利用者さんの作業に取り組む姿や、II部での利用者さんや職員さんの楽しく生き生きした姿に、こちらもお楽しみになりました。職員さん方の日々の努力に感謝します。ありがとうございました。

●沢山の人が参加して、和気藹々で良かったです。仲間のみんなも楽しんで、また頑張れそうです。

●厳粛さもあり、仲間が皆で楽しむことが出来たと思います。よく考えた内容だと思えます。ただ10年前は親が多数出席していたけれど、今回は半分以下で寂しいかぎりです。

●たくさんのお来賓とOB参加で、歴史とOBの現在の様子が知れてよかったです。楽しい企画を準備してくださった職員さん、いつもありがとうございます。これからもよろしく願います。



SDGsの目標をめざそう

～はじまった学びや取り組み～

その8

ゆたか生活支援事業所みなみ
取り組み続けて8年
～防災訓練～



地域の消防団との防災訓練も8年目を迎えました。エール開所時、「身体障害を持ったなかまが多く生活しているホームで災害が起きたら、地域の方の協力なしには対応が難しいのではないか」「地域の方に一人で避難ができない人が暮らしているエールの存在を知ってもらう」というところからスタートしました。

まずは消防団の方に知ってもらい、その後「ふれあいひろば」として、地域の方にも声をかけ、一緒に避難訓練を行ったり炊き出し訓練を行いました。一緒に食事をしながら交流をしたこともありました。

途中コロナ禍もあり、なかなか地域の方を巻き込んでの取り組みが行えませんでした。その間も消防団の皆さんにはご協力いただき、年2回の防災訓練は続けてきました。

職員も入れ替わりのある中、8年



間続けてこられたことは、地域の中で生活するなかまにとって、安心できるポイントの一つではないかと思っています。

今回の防災訓練では「グループホーム宝南の家」と共同で開催をしました。同じ元塩地域のホーム同士で協力できることもあると思います。今後も地域住民や同じ地域内の施設同士で連携を行いながら、なかまが安心して地域で暮らし続けられるように取り組んでいきたいと思っています。

新日本歌人協会

協会賞受賞おめでとうございませす!

キラリンとーぷ 大久保巳司さん

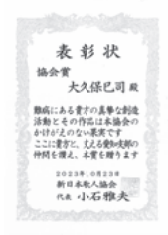
福祉村に入所されています大久保さんは、筋ジストロフィー症を患われながらライフワークとして短歌、俳句づくりを生活の励みにされています。

今回、所属されている「新日本歌人協会」様より、協会の為に長年投稿を続けてこられた功績を称えられ、協会の最高の栄誉である「協会賞」を受賞されました。

毎日ご友人へ電話をして短歌を聴いていただいたり、思いついた歌を職員が書き溜め推敲されたりと、思うように動けないお体であっても、とても精力的に詩作に取り組まれています。困難な状況でも努力される姿は、施設生活を越えて広く大きく社会へと影響を広げられています。

今後もより良い作品を作られますように、施設として、職員として、できる限りサポートをさせていただきます。おめでとございませす。

伊藤学宏



ご本人からのメッセージ

「仲間らの 熱い思いに風に乗る 空に最も近い村」

この歌は、入所した時の職員さんから、ゆたか福祉会 20 周年の集いで福祉村についての感想を作品として発表して欲しいという事で書いたものです。

これを皆さんに褒められて、ブタもおだてりや木に登るという事で、遮二無二短歌の勉強をして一年後に「海の記憶」という自費出版の本を出しました。

それ以降二年ごとに新しい本を出版しながら今日に至っています。新日本歌人協会賞は予想外のことで、ある意味嬉しい誤算かも知れません。これを契機により私らしい歌を作るため、今後も精進したいと思います。

「賞を得て やっと名乗れるこの我も 筋ジス病む身の病床歌人と」



日誌

11月

- 2日(木) 常勤及びパート職員研修
- 7日(火) ワークセンターフレンズ星崎
名古屋市指導監査
- 8日(水) 法人安全衛生委員会
- 10日(金) 食と健康推進委員会
- 13日(月) 事業運営推進会議 /
きょうされん愛知支部名古屋市懇談
- 14日(火) 法人理事と保護者連合会役員懇談
- 16日(木) 新所長研修 / 作業改善ゼミ
- 17日(金) 基礎研修
- 18日(土) リサイクルみなみ作業所
40周年記念レセプション /
ゆたか作業所ふれあいまつり
- 21日(火) 広報・ホームページ編集委員会 /
保護者連合会定例会
- 22日(水) 所長会議
- 25日(土) 理事会
- 27日(月) 援助担当者会議 / 研修部会議
- 29日(水) 副所長会議

一般寄附(11月・12月)

賛助会員新規加入者・
更新者ご芳名一覧

(12月5日～12月6日 手続き分) 順不同敬称略

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 中山葉子美 | 飯田 立輝 | 石元 憲明 |
| 森 素子 | 小野 敏弘 | 亀田やよい |
| 安田 訓明 | 大野 洋志 | 中村 邦夫 |
| 近藤よし恵 | あすなる園 | 清水 理師 |
| 榊大橋製作所 | 赤星 俊一 | 後田 剛 |
| 篠田侑右子 | 宇都宮啓子 | 清水 晶子 |
| 伊藤 浩 | 後藤 和治 | |
| 半場とし子 | 宮川 統子 | |

ご寄付お礼

チャリティーオークションの収益をご寄付頂きました
～ 12.21 愛知中小企業家同友会 年末懇親会～

今から55年前「ゆたか共同作業所」は、中小企業家同友会の皆様のご支援の中で開所することができました。南地区の皆様は今もこうして気にかけ、応援してくださっています。

変わらぬご支援に心から感謝申し上げます。

表紙の作者紹介
「あっぱれ辰年」



つゆはし作業所共同制作 ほかほか班

今回のとっておきの年賀状は、「ほかほか班」にとって初となる、なかまたちの共同制作となりました。なかま達からは、お正月のイメージとして富士山、初日の出、2024年の干支である龍が出されました。

職員は下書きを行いました、「立体感があるといいね」という少しのアイデアから、それぞれが端切れや毛糸を持ち出し、完成のイメージを膨らませていきました。「ほかほか班」にはドラゴンズファンが多いので、「ドラゴンズが活躍しますように!」「太陽の様にみんなが元気に過ごせますように!」などの気持ちを込めて仕上げていきました。

「ほかほか班」のパワーが伝わる、「ほかほか班」らしいとっておきの年賀状ができました。今年も良い一年になりますように。

つゆはし作業所 唐澤 遼

広報・492号

2024年1月号(2024年1月10日発行)

定価1部100円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

ふれあい共同作業所

私たちの
メッセージを
お届けします

2024



親川健一さん



迫田百合子さん

みのり共同作業所



『パフ』

立和名由里さん



『心優しい竜』

八木さゆりさん



『2024年、辰年は飛躍の年!!』
共同制作：ウキウキ班



あかつき
共同作業所



みらいろ



『新年おめでとう』
共同制作：さくら班



『ぼくのかわいい「たつ」』
岸上陽樹さん



『たつどし』斧田悠伽さん

HAPPY NEW YEAR





共同制作：りらく現場



ゆたか
作業所



柘植敬子さん



古澤まり子さん

デイサービス宝南



渡辺洋子さん



水谷都美子さん

HAPPY NEW YEAR